



詳細オプション OnCommand Insight

NetApp
April 01, 2024

目次

詳細オプション	1
失敗したビルドをスキップします	1
Data WarehouseデータベースまたはReportingサーバをリセットしています	2
6.3より前のバージョンのレポートのリストアとアップグレード	3
コマンドラインインターフェイスを使用したMySQLへのアクセス	4
Data Warehouseのトラブルシューティング	5

詳細オプション

Data Warehouseには、さまざまな高度なオプションがあります。

失敗したビルドをスキップします

最初のビルドの後、ビルドが失敗することがあります。失敗したビルドのあとにすべてのジョブが正常に完了するようにするには、*[Skip history build failures]*オプションを有効にします。

このタスクについて

ビルドが失敗し、*[Skip history build failures]*オプションが有効になっている場合、Data Warehouseはビルドを続行し、失敗したビルドは無視します。この場合、スキップされたビルドのデータポイントは履歴データにありません。

このオプションは、ビルドが失敗した場合にのみ使用してください。

[Build from History]でビルドが失敗し、*[Skip history build failures]*チェックボックスが選択されていない場合、以降のジョブはすべて中止されます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*[履歴からビルド]*をクリックします。

Build From History

Target time	Start running	Status
3/13/15 12:00 AM	3/25/15 9:28 AM	COMPLETED
3/14/15 12:00 AM	3/25/15 9:34 AM	COMPLETED
3/15/15 12:00 AM	3/25/15 9:39 AM	COMPLETED
3/16/15 12:00 AM	3/25/15 9:45 AM	COMPLETED
3/17/15 12:00 AM	3/25/15 9:51 AM	COMPLETED
3/18/15 12:00 AM	3/25/15 9:57 AM	COMPLETED
3/19/15 12:00 AM	3/25/15 10:03 AM	COMPLETED
3/20/15 12:00 AM	3/25/15 10:09 AM	COMPLETED
3/21/15 12:00 AM	3/25/15 10:16 AM	COMPLETED
3/22/15 12:00 AM	3/25/15 10:23 AM	COMPLETED
3/23/15 12:00 AM	3/25/15 10:30 AM	COMPLETED
3/24/15 12:00 AM	3/25/15 10:38 AM	COMPLETED
3/25/15 12:00 AM	3/25/15 10:44 AM	COMPLETED

Cancel Pending Jobs

Configure

Run

Skip history build failures: ☒

3. [Configure] をクリックします。
4. ビルドを設定します。
5. [保存 (Save)] をクリックします。
6. 失敗したビルドをスキップするには、*[ビルドの失敗の履歴をスキップする]*をオンにします。

このチェックボックスは、* Run *ボタンが有効になっている場合にのみ表示されます。

7. スケジュールされた自動ビルド以外でビルドを実行するには、*[実行]*をクリックします。

Data WarehouseデータベースまたはReportingサーバをリセットしています

Data Warehouseデータマートの内容を削除し、設定されているすべてのコネクタを削除できます。この処理は、インストールまたはアップグレードが正常に完了せず、Data Warehouseデータベースが中間の状態になった場合に実行します。InventoryデータモデルまたはCognos Reportingデータモデルのみを削除することもできます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*[DWHデータベースのリセット]*をクリックします。

3. 次のいずれかのオプションをクリックします。

◦ * DWHデータベースのリセット*

これにより、すべてのData Warehouseデータマートの内容と設定済みのコネクタがすべて削除され、カスタム設定を行わずにData Warehouseがインストールされたデフォルトの状態になります。このオプションは、接続しているサーバを変更したあとにサーバで別のData Warehouseデータベースを誤ってリストアし、インストール済みのデフォルトの状態に戻す必要がある場合などに選択します。レポートは削除されません。（レポートはCognos Content Storeに保存されます）。

◦ 在庫のみリセット

これにより、Inventoryデータモデルの内容のみが削除されます。履歴データは削除されません。

◦ レポートコンテンツのリセット

これにより、レポーティングサーバのコンテンツがリセットされます。これにより、既存のカスタムレポートがすべて削除されます。このオプションを選択する前に、レポートをバックアップしてください。

警告メッセージが表示されます。

4. 続行するには、*[はい]*をクリックします。

6.3より前のバージョンのレポートのリストアとアップグレード

6.3より前のバージョンのInsightをアップグレードする場合は、レポートアーティファクトを手動でリストアする必要があります。

作業を開始する前に

トピック「Data Warehouse (DWH) のアップグレード」および「カスタムレポートおよびレポートアーティファクトのバックアップ」の手順に従います。

手順

1. バージョン6.3より前のリリースからレポートアーティファクトをリストアするには、に作成して保存したExport Backup.zipファイルをコピーします <install>\cognos\c10_64\deployment ディレクトリ。
2. ブラウザを開き、に移動します <http://<server>:<port>/reporting> インストール中に使用したサーバおよびポート用。
3. ユーザー名とパスワードを入力し、* Login *をクリックします。
4. メニューから[Insight Reporting Administration]*を選択します。
5. [* 構成 *] タブをクリックします。

データモデルの変更により、古いパッケージのレポートは実行されず、アップグレードが必要になる場合があります。

6. [コンテンツ管理]*をクリックします。

7. [新規インポート]*ボタンをクリックします。
8. アーカイブが配置ディレクトリにコピーされていることを確認します（例： backup6.0.zip）を選択し、*[Next]*をクリックします。
9. アーカイブを保護するためのパスワードを入力した場合は、パスワードを入力して* OK *をクリックします。
10. 名前を変更します Export... 終了： Import Backup [次へ]*をクリックします。
11. 各パッケージ名の横にある鉛筆のアイコンをクリックし、必要に応じて新しいターゲット名を入力します。たとえば、を追加します _original 既存の名前のサフィックス。次に、[OK] をクリックします。
12. すべてのパッケージのターゲットパッケージ名を変更したら、すべての青いフォルダを選択し、*次へ*をクリックして続行します。
13. デフォルト値をすべて受け入れます。
14. をクリックし、[実行]*を選択します。
15. このインポートの詳細を確認し、* OK *をクリックします。
16. [更新]*をクリックすると、インポートのステータスが表示されます。
17. インポートが完了したら、*[閉じる]*をクリックします。

結果

[Public Folders]タブに2セットのパッケージが表示されます。たとえば、があるとします 7.0 サフィックス（新しいバージョンの場合）とが付いたサフィックス _original（またはbackup/restore手順 で入力したもの）サフィックス。これには、古いレポートが含まれます。データモデルの変更により、古いパッケージのレポートは実行されず、アップグレードが必要になる場合があります。ポータルタブが現在のバージョンのポータルページを指すようになりました。

コマンドラインインターフェイスを使用したMySQLへのアクセス

Data Warehouseのデータ要素には、レポートオーサリングツールを使用してアクセスできるだけでなく、MySQLユーザとして接続することで直接アクセスすることもできます。MySQLユーザとして接続して、独自のアプリケーションでデータ要素を使用することもできます。

このタスクについて

接続方法はたくさんあります。次の手順は、1つの方法を示しています。

MySQLにアクセスする場合は、Data WarehouseがインストールされているマシンのMySQLデータベースに接続します。MySQLのデフォルトのポートは3306ですが、インストール時に変更できます。ユーザ名とパスワードは、dwhuser / netapp123です。

手順

1. Data Warehouseがインストールされているマシンで、コマンドラインウィンドウを開きます。
2. OnCommand Insight ディレクトリ内のmysqlディレクトリにアクセスします。

3. 次のユーザー名とパスワードを入力します。 `mysql -udwhuser -pnetapp123`

Data Warehouseがインストールされている場所に応じて、次の情報が表示されます。

```
c:\Program Files\SANscreen\mysql\bin> mysql -udwhuser -pnetapp123
```

```
Welcome to the MySQL monitor. Commands end with ; or \g.  
Your MySQL connection id is 882  
Server version: 5.1.28-rc-community MySQL Community Server (GPL)
```

```
Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the buffer.
```

4. Data Warehouseデータベースを表示します。 `show databases;`

次のメッセージが表示されます。

```
mysql> show databases;  
+-----+  
| Database                |  
+-----+  
| information_schema      |  
| dwh_capacity            |  
| dwh_capacity_efficiency |  
| dwh_fs_util            |  
| dwh_inventory          |  
| dwh_performance        |  
| dwh_ports              |  
+-----+
```

Data Warehouseのトラブルシューティング

Data Warehouseのトラブルシューティングに関連するさまざまなタスクを実行できます。

- OnCommand Insight ASUPを使用する。
- OnCommand Insight ログを表示します。
- アップグレードとビジネスエンティティに関連する問題を解決する。
- 複数のOnCommand Insight サーバの統合に関連する問題を解決します。

複数のOnCommand Insight サーバを同じData Warehouseデータベースに統合できます。多くの設定では、複数のコネクタから同じオブジェクトが報告される場合があります（つまり、同じスイッチが2つ

のOnCommand Insight インスタンスに存在する場合)。このような場合、Data Warehouseは複数のオブジェクトを1つに統合します（プライマリコネクタが選択され、オブジェクトのデータはそのコネクタからのみ取得されます）。

ストレージ管理者は、[Troubleshooting]ページを使用して、統合の問題に関連する問題を解決できます。

ASUPを使用した問題 の解決

ASUPのログをテクニカルサポートに送信して、トラブルシューティングの支援を受けることができます。Data WarehouseのASUPは自動的に実行されるように設定されます。Data Warehouseポータルでは、自動送信プロセスを無効にしたり、Data Warehouseデータベースのバックアップを含めるように指定したり、ASUPへの転送を開始したりできます。

ログの情報は、HTTPSプロトコルを使用してテクニカルサポートに転送されます。ASUPを使用してデータを転送するには、Insight ServerでASUPを最初に設定する必要があります。

Data WarehouseからOnCommand Insight サーバにログが送信されます。このサーバは、Data Warehouseポータルの[Connectors]ページにリストされている最初のコネクタです。自動プロセスでは、次のファイルが送信されます。

- Data Warehouseのログ。次のログが記録されます。
 - boot.log（バックアップを含む）
 - dwh.log（dwh.log.1などのバックアップを含む）
 - dhw_troubleshoot.log
 - dwh_upgrade.log（バックアップを含む）
 - WildFly.log（バックアップを含む）
 - ldap.log（バックアップを含む）
 - Data Warehouse管理データベースのSQLダンプ
 - mysql：my.cnf、.err、およびスロークエリのログ
 - 完全なInnoDBステータス

- Cognosのログ。次のログが記録されます。

- cognos-logs.zip

にあるCognosログファイルが含まれています <install>\cognos\c10_64\logs ディレクトリ。また、Cognosで生成されるログ、およびOnCommand Insight Reportingに対するユーザのログインとログアウトがすべて記録されたOnCommand のInsightAP.logファイルも含まれます。

- DailyBackup.zip

[Public Folders]にあるレポートアーティファクトのバックアップが含まれています。[マイフォルダ]の内容はこれには含まれません。

- Cognos version site name_content_store.zip

Cognos Content Storeのフルバックアップが格納されています。

トラブルシューティングレポートは手動で生成できます。トラブルシューティングレポートの.zipファイルには、Data Warehouseに関する次の情報が含まれています。

- boot.log (バックアップを含む)
- dwh.log (dwh.log.1などのバックアップを含む)
- dwh_upgrade.log (バックアップを含む)
- wildfly.log (バックアップを含む)
- ldap.log (バックアップを含む)
- c:\Program Files\SANscreen\wildfly\standalone\log\dwh\内のダンプファイル
- Data Warehouse管理データベースのSQLダンプ
- mysql: my.cnf、.err、およびスロークエリのログ
- 完全なInnoDBステータス



OnCommand Insight データベースのバックアップは、ASUPからテクニカルサポートに自動的に送信されません。

ASUPの自動送信を無効にしています

すべてのネットアップ製品には、環境で発生した問題のトラブルシューティングに最大限のサポートを提供する自動化された機能が搭載されています。ASUPは、事前に定義された特定の情報をカスタマーサポートに定期的に送信します。Data WarehouseではデフォルトでASUPが有効になっていますが、情報の送信が不要になった場合は無効にすることができます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、*トラブルシューティング*をクリックします。
2. ASUPから日次レポートが送信されないようにするには、[無効化]*をクリックします。

ASUPが無効になったことを示すメッセージが表示されます。

Data Warehouseデータベースのバックアップを含む

デフォルトでは、トラブルシューティングのサポートを受けるためにASUPからテクニカルサポートに送信されるのはData Warehouseのログファイルだけですが、Data Warehouseデータベースのバックアップを含めるように指定して、送信するデータのタイプを選択することもできます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*トラブルシューティング*をクリックします。

3. ASUPにData Warehouseデータベースのバックアップを含めるように指定するには、*[Include DWH Database Backup]*リストをクリックし、バックアップに含めるデータのタイプとして次のいずれかのオプションを選択します。
 - すべて（パフォーマンスを含む）
 - パフォーマンスを除くすべて
 - 在庫のみ
4. [更新（ Update ）] をクリックします。

Insightのログを**ASUP**に送信しています

ASUPのログをテクニカルサポートに送信して、トラブルシューティングの支援を受けることができます。Data WarehouseのASUPは自動的に実行されるように設定されます。Data Warehouseポータルでは、自動送信プロセスを無効にしたり、Data Warehouseデータベースのバックアップを含めるように指定したり、ASUPへの転送を開始したりできます。ASUPレポートを要求すると、Data Warehouseポータルの[Jobs] ページにレポート要求がジョブとして表示されます。

このタスクについて

ジョブは、他のジョブの処理と同様に、ジョブキューによって管理されます。保留状態または実行中のASUPジョブがすでにある場合は、ジョブキューに保留中の要求または実行中の要求が含まれているためにASUPレポート要求をジョブ要求に追加できないことを示すエラーメッセージが表示されます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*トラブルシューティング*をクリックします。
3. トラブルシューティング*ページの* OnCommand Insight ASUP セクションで、[DWHトラブルシューティングレポートのダウンロード]*をクリックしてトラブルシューティングレポートを取得します。
4. Data Warehouseポータル*[Connectors]ページで最初のコネクタとしてリストされているOnCommand Insight サーバにレポートを送信するには、*[Send Now]*をクリックします。

OnCommand Insight ログの表示

Data WarehouseとCognosのさまざまなログをOnCommand Insight で表示できます。

このタスクについて

トラブルシューティングとステータスの情報は、CognosとData Warehouseのログファイルで確認できます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*トラブルシューティング*をクリックします。

3. セクションで、[ログファイル]*をクリックします。

次のログファイルが表示されます。

dwh.log
Data Warehouseのジョブのステータスが表示されます
wildfly.log
WildFlyアプリケーションサーバーに関する情報を提供します
dwh_upgradeログ
Data Warehouseでのアップグレードに関する情報を提供します
ldap.log
LDAP認証に関連するメッセージを記録します
dwh_troubleshoot.log
DWHの問題のトラブルシューティングに役立つメッセージが記録されます
sansscreenap.log
サーバへの接続、Cognosリポジトリへの認証とアクセス、およびその他のプロセスに関する情報が表示されます
cognosserver.log
Cognosのログ

4. 表示するログファイルの名前をクリックします。

複数サーバシャーシの統合に関する問題

ホスト、アダプタ、SANスイッチ、およびストレージアレイについて報告するコネクタを表示できます。また、オブジェクトについてレポートするさまざまなコネクタを表示し、プライマリコネクタ（オブジェクトに対して選択されたコネクタ）を識別することもできます。

ホストとアダプタの統合に関する問題の表示

ホストとその関連アダプタについて報告されるデータは、Inventoryデータマートから取

得されます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*トラブルシューティング*をクリックします。
3. セクションで、[Hosts and Adapters]*をクリックします。



この例の構成は有効な構成ではありません。プリンシパルコネクタと使用可能なコネクタがlocalhostにあることから、Insight ServerとDWHが同じサーバにインストールされていることがわかります。この例の目的は、統合テーブルを理解することです。

Hosts and Adapters Consolidation

Filter

Host GUID	Host Name	Host IP	Adapter GUID	Adapter WWN	Principal Connector	Available Connectors	Insight ID	Insight Change Time
288	Agassi	192.1.168.71			localhost (1)	localhost (1)	9927	11/18/10 1:36 PM
			576	40:A0:00:00:00:00:84	localhost (1)	localhost (1)	9928	11/18/10 1:36 PM
			577	40:A0:00:00:00:00:85	localhost (1)	localhost (1)	9930	11/18/10 1:36 PM
305	AI_Host1	192.1.168.88			localhost (1)	localhost (1)	12254	11/18/10 1:38 PM
			597	40:A0:00:00:00:00:01:05	localhost (1)	localhost (1)	12255	11/18/10 1:38 PM
306	AI_Host2	192.1.168.89			localhost (1)	localhost (1)	12257	11/18/10 1:38 PM
			598	40:A0:00:00:00:00:01:06	localhost (1)	localhost (1)	12258	11/18/10 1:38 PM
307	AI_Host3	192.1.168.90			localhost (1)	localhost (1)	12260	11/18/10 1:38 PM

すべてのホストとアダプタについて、ホストとアダプタについて報告するコネクタごとに行が作成され、ホストとアダプタの取得元であるプライマリコネクタも表示されます。ホストとアダプタの場合のみ、あるコネクタから報告されるホストのアダプタが別のコネクタから報告されることがあります。

各コネクタのホスト/アダプタのOnCommand Insight 変更時刻を確認することもできます。このパラメータを使用すると、ホスト/アダプタがOnCommand Insight で更新された日時と、同じホスト/アダプタが他のOnCommand Insight サーバで更新された日時を検出できます。

4. 必要に応じて、テキストの一部を入力して* Filter をクリックし、このビューでデータをフィルタリングします。フィルタをクリアするには、Filter ボックスのテキストを削除し、Filter *をクリックします。ホスト名、ホストIP、アダプタWWN、またはOnCommand Insight オブジェクトIDでフィルタリングできます。

フィルタでは大文字と小文字が区別されます。

5. 次のデータを確認します。

- *ホストGUID *

このタイプの統合デバイス（ホスト）のグローバル一意識別子

- * ホスト名 *

Data Warehouseに表示される統合ホストの名前

- *ホストIP *

統合ホストのIPアドレス

- *アダプタGUID *

ホストアダプタのグローバル一意識別子

- *アダプタWWN *

ホストアダプタのWWN

- プリンシパルコネクタ

データの実際のソースであったOnCommand Insight コネクタの名前

- 使用可能なコネクタ

統合ホスト/アダプタが存在するすべてのOnCommand Insight コネクタ

- * Insight ID *

関連するレポートコネクタの統合ホスト/アダプタのOnCommand Insight ID

- * Insight Change Time *

ホスト/アダプタのOnCommand Insight で更新が行われたとき、および同じホスト/アダプタが他のOnCommand Insight サーバで更新されたとき

6. コネクタの詳細を取得するには、コネクタをクリックします。

コネクタに関する次の情報が表示されます。

- ホスト名
- そのコネクタに対して最後にData Warehouseジョブが実行された日時
- そのコネクタから最後に変更を受信した日時

- そのコネクタが参照しているOnCommand Insight サーバーのバージョン

ストレージアレイの統合に関する問題の表示

ストレージアレイについて報告されるデータは、Inventoryデータマートから取得されます。すべてのストレージアレイについて、ストレージアレイについて報告するコネクタごとに行が表示され、各アレイの作成元であるプライマリコネクタも表示されます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*トラブルシューティング*をクリックします。
3. シャーシ統合*セクションで、*SANストレージアレイ*をクリックします。
4. 必要に応じて、このビューでデータをフィルタリングするには、[フィルタ]ボックスにテキストの一部を入力し、[フィルタ]*をクリックします。フィルタをクリアするには、[フィルタ]ボックスのテキストを削除し、[フィルタ]*をクリックします。フィルタには、ストレージ名、ストレージIP、ベンダーモデル、OnCommand Insight オブジェクトIDを使用できます。

フィルタでは大文字と小文字が区別されます。

5. 次のデータを確認します。

- * GUID *

このタイプの統合デバイス（ストレージアレイ）のグローバル一意識別子

- * 名前 *

Data Warehouseに表示される統合ストレージアレイの名前

- * IP *

統合ストレージアレイのIPアドレス

- ベンダーおよびモデル

統合ストレージアレイを販売するベンダーの名前とメーカーのモデル番号

- プリンシパルコネクタ

データの実際のソースであったOnCommand Insight コネクタの名前

- 使用可能なコネクタ

統合ストレージ・アレイが存在するすべてのOnCommand Insight コネクタ

- * Insight ID *

プリンシパルコネクタが配置されているOnCommand Insight シャーシ上の統合ストレージアレイのID

- * Insight Change Time *

ストレージレイのOnCommand Insight で更新が行われた日時、および同じストレージレイが他のOnCommand Insight サーバで更新された日時

スイッチの統合に関する問題の表示

スイッチについて報告されるデータは、Inventoryデータマートから取得されます。すべてのスイッチについて、スイッチについて報告するコネクタごとに行が表示され、各スイッチの取得元であるプライマリコネクタも表示されます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、[*トラブルシューティング]をクリックします。
3. Chassis Consolidation（シャーシ統合）セクションで、SAN Switches（SANスイッチ）*をクリックします。
4. 必要に応じて、テキストの一部を入力して* Filter をクリックし、このビューでデータをフィルタリングします。フィルタをクリアするには、[フィルタ (**Filter**)] ボックスをクリアし、[フィルタ (Filter)] *をクリックします。フィルタには、スイッチ名、スイッチIP、ベンダーモデル、またはOnCommand Insight オブジェクトIDを使用できます。

フィルタでは大文字と小文字が区別されます。

5. 次のデータを確認します。

- * GUID *

このタイプの統合デバイス（ストレージレイ）のグローバル一意識別子

- * 名前 *

Data Warehouseで表示される統合ストレージレイの名前

- * IP *

統合ストレージレイのIPアドレス

- ベンダーおよびモデル

統合ストレージレイを販売するベンダーの名前とメーカーのモデル番号

- **WWN**

統合スイッチのWWN

- プリンシパルコネクタ

データの実際のソースであったOnCommand Insight コネクタの名前

- 使用可能なコネクタ

統合ストレージ・アレイが存在するすべてのOnCommand Insight コネクタ

- * Insight ID *

プリンシパルコネクタが配置されているOnCommand Insight シャーシ上の統合ストレージアレイのID

- * Insight Change Time *

ストレージアレイのOnCommand Insight で更新が行われた日時、および同じストレージアレイが他のOnCommand Insight サーバで更新された日時

複数サーバのアノテーションの統合に関する問題の解決

Data Warehouseの[Troubleshooting]ビューの[Annotation Consolidation]ビューには、使用可能なすべてのアノテーションタイプとそれらを適用できるオブジェクトタイプを含むテーブルが表示されます。

このタスクについて

アノテーション値の統合は、アノテーションタイプの値に基づいて行われます。ストレージアレイには、それぞれ異なるコネクタから取得される2つの階層値があります。したがって、一方のコネクタにgoldという名前でティアが定義され、もう一方のコネクタでgoldyという名前でティアが定義されている場合、この情報はData Warehouseに2つの個別のティアとして表示されます。

一部のアノテーションタイプでは同じオブジェクトに複数のアノテーション値を割り当てることができるため、Data Warehouseではオブジェクト（「host」など）に複数のアノテーション値を割り当てることができます（「data center 1」と「data center 2」を同じホストに割り当てすることもできます）。

ボリュームのティアアノテーションは、一般的なアノテーションテーブルとは多少異なります。環境内には大量のボリュームが存在する可能性があり、それらをすべてData Warehouseに表示すると、情報のユーザビリティに影響する可能性があります。そのため、[Annotations Consolidation]ビューには、複数のティア値が割り当てられているボリュームと、そのボリュームを含むストレージのみが表示されます。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、*トラブルシューティング*をクリックします。
3. セクションで、オブジェクトの行の[Show]*をクリックします。

Data_Centerのアノテーションの例を次に示します。

Troubleshooting Annotations Consolidation

Annotation Type: Data_Center

Object Type: Host

Host GUID	Host Name	Host Natural Key	Data_Center Value	Connector
305	AI_Host1	192.1.168.88	New York	localhost (1)
306	AI_Host2	192.1.168.89	New York	localhost (1)
307	AI_Host3	192.1.168.90	New York	localhost (1)

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。